

・ハザードマップ等と住宅・施設の立地規制

わが国では防災を進めるためにハザードマップ等を積極的に公表し住民に提供するようになってきている。また、都市計画分野においても立地適正化計画により住宅や都市施設の立地を計画的に誘導し、災害に強くコンパクトで持続可能な市街地の形成を目指す仕組みも構築されて来た。しかし、立地適正化計画は小都市の場合は未計画が多く、また、計画されている場合でも、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）を除いて、ハザードマップ等と都市計画による立地規制は必ずしもリンクされているわけではない。津波の場合は被災予想がなされていても避難訓練による対応まで、実際に建築物の移転、立地規制までには至っていない。今後は、両者をリンクするようにして、必要な場合は、既存建築物の移転、新規立地を規制する仕組みを構築していく必要がある。

・歴史的な建築物と町並みの保全と再生

能登地域の里山・里海と農山漁村が一体となった風景とそこで営まれる生業や祭りは、日本のふるさと感じさせ、黒瓦の家並みはふるさとの原風景でもある。実際、輪島市黒島地区は北前船の船主や船頭が多く居住した歴史的集落として2009年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。このような選定まで至らなくても歴史的で魅力ある建築物や町並みが多い。今回の地震でこれらの多くが被災した。

こうした歴史的な建築物と町並みについても保全と再生を目指す必要があるが、その中で、伝統的様式の建物の耐震性の確保、倒壊せず人命を守る補修のあり方についてあらためて問われていると言えよう。

・自然的景観資源の保全と再生

「能登の里山・里海」は2011年に世界農業遺産として選定された。今回の地震では、その重要な構成要素である輪島市の「白米千枚田」は一部が崩壊、亀裂が生じ大きく被災した。「揚げ浜式塩田」も海岸部の地盤隆起や製塩施設の損壊などがあった。ユネスコの無形文化遺産に2016年選定のキリコ祭りも山車の破損や人口流出により存続が危ぶまれている。珠洲市の見附島、通称軍艦

島は地震による土砂崩壊により「軍艦」のイメージが大きく損なわれてしまった。珠洲市、能登町の津波襲来地域の復興には国より大規模な防潮堤建造の提案がなされている。建設されると地域の大切な風景が一変してしまうであろう。

このような被災から復興し、歴史を繋いで創造的により豊かな未来を形成し次世代に引き継ぐのが問われている。

「復興報告」の試み

筆者は、今回の地震からの復興に関連する、都市計画分野におけるこれらの論点について、「能登半島地震からの復興に向けて—金沢からの報告—」をとりまとめ情報発信を行って来ている。不定期ではあるが、これまで下記の報告を行って来た。

- ・No.1、2024年2月：地震とそれによる被災の概要、輪島市河井町の大規模火災を説明、都市計画分野の論点を提案
- ・No.2、2024年3月：輪島市河井町の大規模火災の概要を説明し、これまでの大規模火災の復興事例を参照して復興について提案
- ・No.3、2024年4月：内灘町の液状化と側方流動による被災地について、被害状況を説明するとともに復興の方向について提案
- ・No.4、2024年5月：歴史的な建築物について、耐震性の特徴や法制度上の位置づけを説明し、地震による被災実態と今後の復興のあり方を報告

いずれも「カワカミ都市計画研究室」の「能登半島地震関連」のサイト（下記URL）またはQRコードよりダウンロード可能なので読んでいただければ幸いです。

[https://www.kawakami-](https://www.kawakami-lab.com/%E8%83%BD%E7%99%BB%E5%8D%8A%E5%B3%B6%E5%9C%B0%E9%9C%87%E9%96%A2%E9%80%A3/)

[lab.com/%E8%83%BD%E7%99%BB%E5%8D%8A%E5%B3%B6%E5%9C%B0%E9%9C%87%E9%96%A2%E9%80%A3/](https://www.kawakami-lab.com/%E8%83%BD%E7%99%BB%E5%8D%8A%E5%B3%B6%E5%9C%B0%E9%9C%87%E9%96%A2%E9%80%A3/)

